

せいりょう園

[発行] 社会福祉法人はりま福社会 特別養護老人ホームせいりょう園

〒675-0016 兵庫県加古川市野口町長砂 95-20 TEL 079-421-7156 FAX 079-421-6422

平成22年 5月 第111号 年間購読料1,000円(1部100円)

メール seiryoen@bb.banban.jp ホームページ <http://www.seiryoen.or.jp>

安全・安心と自立支援

最近の新聞で『検察審査会』がよく話題になり、鳩山首相と小沢幹事長の政治資金に関する事件、JR福知山線の脱線事故、明石の花火大会での歩道橋雑踏事故、と毎日のように取り上げられています。

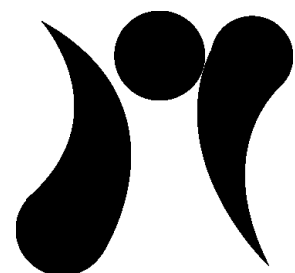
小沢幹事長には自らの政治資金については管理責任が有り、JR西日本の元会長と元社長の3人には、事故を生んだ社内体制の管理責任が有り、明石警察署の当時の副署長には、雑踏警備の管理責任が有る。検察庁の専門家による不起訴の判断に対して、市民の感覚で再審査が行われ、三つの事件では起訴相当の判断が明らかにされました。

介護現場でも今、ご利用者の安全と安心について、施設側の安全配慮義務と管理責任が強く求められている中で、大きな関心を払いたいと思います。

JRの脱線事故については、乗客は100%被害者であり、事故の原因として、運転手の操作技術と、車両の安全装置の適否、社内の運行体制に係わる課題等を追求する中で、組織トップの管理責任が鋭く問われています。ご利用者の自立を支援する介護現場の安全配慮とは本質的に違う側面がありますが、組織の責任として配慮し管理すべき点については明確に規定し、心したいと思います。

明石の歩道橋での雑踏事故については、警察の雑踏警備に関しての甘い認識が鋭く問われています。雑踏を構成する一人一人の市民の意識と行動、大きな集団となった時の騒乱的行動、パニックになった時の激しい混乱、と警備する側の予測を大きく超えた市民の集団的な動きに対して、警備体制の不備と対応の遅れが強く指摘され、元副署長の起訴相当に繋がっています。

《次ページに続く》



しかし一方で、警備する側の責任のみを問うことで事故の真相が解明できるのか、との疑問も生じてきます。また、事故の再発防止に向けての対策にも、市民一人一人の自覚と協力が重要なようにも感じます。

大きなイベントに際しては市民の一人一人に、混雑を予測して自分の居場所を決める自覚を求め、雑踏の混乱を目の当たりした時に慎重な行動を求める事が、雑踏事故の再発を防止する為には是非必要です。日常生活の場で自らの安全と安心を確保する為には、規制と警備の対象となる市民である以前に、自立して主体的に行動し自主規制する市民でありたい、と願います。

生活者としての自立と主体性は、介護現場における自立支援の原点であり、主役として人生を締め括る証です。老いの過程で生じる様々なリスクに対して、生活主体者として引き受けるべきリスクを明らかにしながら、介護者としてご本人やご家族と協働して、生活の場での適切な安全と安心を確保する途を探りたいと思います。

せいりょう園 渋谷 哲

第17回 木野雅之ヴァイオリンリサイタル

ヴァイオリン 木野 雅之



Photo by Mr. Kazuya Akashi

日時 平成22年6月19日(土)
開場 18:00
開演 18:30
料金 4000円(ドリンク付き)
会場 リバティかこがわ2F 大ホール
(加古川市野口町長砂95-2)
JR加古川駅・JR東加古川駅より
ゾーンバス「長砂公民館前」下車すぐ
主催 せいりょう園 (079)421-7156

♪ プログラム ♪

1. メンデルスゾーン：5月のそよ風
2. メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲第2番ホ短調Op.64
～休憩(ドリンクタイム)～
3. コープラント：ホーダウン
4. モンティ：チャルダッシュ
5. エルガー：愛の挨拶
6. リスト：なぐさめ
7. サラサーテ：カルメン幻想曲



ピアノ
平沢 匡朗

講師 天台宗鶴林寺 幹 栄盛ご住職

今月の仏教講話は加古川町北在家、天台宗鶴林寺、幹栄盛ご住職に来て頂いた。当園の仏教講話は2006年12月にスタートしたのだが、翌2007年6月、幹ご住職に来て頂いた。ご住職は加古川市仏教会の会長を務められており、そのご縁で毎月、仏教会からご住職を派遣頂いて講話を願っている。

高齢者の話から講話は始まった。「高齢者とは何歳からですかね？後期高齢者という言い方もありますね。いずれにしても私も間違いなく高齢者です。70歳を越えてから、今までと何か違うなど感じます。身体のおちこちに変調を覚えます。体力が落ちると気力も萎えてきます。この頃になると次のことを考えます。キリスト教には天国があり、仏教では極楽浄土(お浄土)があります。しかし、お浄土へは勝手に行けません。お迎えが必要なんですね。お迎えのことを『来迎』と言います。」

ここから鶴林寺の太子堂壁画の復元模写『九品来迎図』(くぼんらいごうず)に話は進む。国宝太子堂は約900年前の建立で、堂内は長年焚かれた蠟燭、線香、護摩(ごま)の煙や煤の為、真黒にすすけているが、赤外線撮影により鮮明な画像が浮かび上がった。壁には表に阿弥陀来迎図、裏は釈迦涅槃像(ねはんぞう)が描かれている。色彩は赤外線撮影では判別されないので、顔料を推定する蛍光エックス線分析の結果を基に東京芸大で彩色された。襖2枚ほどの大きさで、今年の3月初旬から一般公開されており、拝観された方があるかもしれないし、新聞でこのニュースを見た人もあるだろう。『九品来迎図』とは、生前の所業により、往生の段階が上品上生(じょうぼんじょうしょう)から下品下生(げぼんげしょう)までの9段階に分かれ、極楽往生を願う人の臨終に、阿弥陀如来が楽を奏する菩薩を従えて迎えに来る情景を『観無量寿経』に基づいて描かれたもの。具体的には「上の上、中、下。中の上、中、下。下の上、中、下」「上の上から下の下までの9段階」。来迎図の上段は阿弥陀さまの来迎とその帰る様子が、中段から下段には僧侶や草堂とともに、現世の殺生などが描かれているが、その人物・風景の描写は風俗史料としても興味深いものである。

『殺生』は、対象が何であってもしてよいというものは無い。動物でも魚でも、草や木の葉であっても許されない。しかし、殺生しなければ生きていけないのが私たちです。だから無駄な殺生はしないことである。加えて布施の気持ちを忘れないこと。布施とは何も金品で相手をもてなす事だけではない。布施とは相手を喜ばせることであるし、それは『身』、『言』、『心』を使ってすることが出来る。身体を使っている協力、助け合いが出来るし、言葉では勇気付けたり、慰めたり、励ましたりできる。また、相手をよく思う心は布施そのものである。

果たして私にお浄土へのお迎えは来るのだろうか？お迎えが来るとして、どの段階のお迎えが来るだろうか。ご住職が言われるには、信仰の心を持ち、平素から布施の気持ちを全うすれば、少なくとも下の下のお迎えは間違いなく来ますとのこと。下の下にも引っかからない人はどうなるのか？3匹の鬼が引っ張る火の車に乗って地獄に落ちるらしい。地獄に落ちるのは嫌だし、布施の気持ちを持って、南無阿弥陀仏の念仏を唱えてお浄土に生まれ変わり、永遠の命をいただきたいものです。

有難うございました。今後ともご支援の程よろしくお願い致します。

介護についてみんなで語ろう会

テーマ「認知症をよく知ろう」

4月23日(金)

せいりょう園老人介護支援センター
社会福祉士 吉田 知一

「介護についてみんなで語ろう会」という名前でもリニューアルしてから、第一回目の会を迎えました。一方が発言し伝える場ではなく、参加されている方が平等に意見を言える学びの場にしていきたい、という考えでこの名前になりました。

第一回目は「認知症をよく知ろう」というテーマで開催しました。

認知症の方と接する時にどのように接すればよいか分からない、と答える方が多いと思いますが、今回は認知症の方との接し方について皆さんと話し合いました。

認知症の症状は様々ですが、もっとも中心になる症状はもの忘れなどの記憶障害や場所や時間などの認識ができない見当識障害が多いです。症状に気がついて、最初は何かおかしいな、という程度のものであったのが、周辺症状と言われる「徘徊」や「物盗られ妄想」などの症状が強くなると介護者の負担も大きくなるケースがあります。この周辺症状こそ、その人の感情やその人らしさやこれまでの体験、経験が症状に反映され、周りの環境が原因で引き起こされるものが多いと言われています。つまり、周りの環境や接し方次第で症状が落ち着くことがあるということです。

認知症になると、何も分からなくなるのではないかと・・・と思われるかもしれませんが、感情やその人らしさは最後まで残っています。「どうせ何も分からないだろう」というような接し方では、症状が治まるどころか自尊心を傷つけてしまい、余計不穏にさせてしまう結果になることがあります。重要なのは、私たちと同じ権利と責任を持った人間であり、人生の大先輩として敬意を示して接することだと思います。今まで興奮していた方でも、声かけひとつで落ち着かれる方もいらっしゃいます。

認知症の方に対する接し方はケースバイケースで正解などないかもしれませんが、自尊心を傷つけない対応を寸劇で上手く表している映像を見ていただきました。それは今年の2月20日市民会館で開催された認知症理解普及啓発講演会「認知症にやさしいまちかこがわ」で「劇団きぼう」が演じた介護劇の模様を収めたDVDです。

DVDの内容

主人公はAさんという82歳の女性です。5年前に夫に先立たれてからも何とか一人で頑張ってきたのですが、最近は物忘れが進んで周りの方に迷惑をかけるから、と自宅で引きこもりがちになることが多くなってきました。そんな中でも日課にしている朝の散歩は欠かさず続けているのですが、近所の畑の作物を勝手に持ち帰ろうとするところにオレンジリングをしている認知症サポーターのBさんがバッタリ遭遇します。BさんはAさんの自尊心を傷つけずに上手に声かけをされ、Aさんも落ち着きを取り戻しました。

グループワーク

○DVDの内容を鑑賞して、もし、自分がその現場にいた場合、皆さんならどんな対応をされますか？

- ・実際に、外を歩いていると認知症の方に声をかけられたことがあります。よく話を聞くとせいりょう園の利用者だったことが分かり、後ろの方から職員が着いているのが分かりました。
- ・認知症の方と会話していても話が通じる時と通じない時があるので、どの段階まで分かっているのか分からない
- ・離れて暮らしている家族ほど本人の状態が分からないので認知症の症状が進んでいたとしても、受け入れることができない。
- ・徘徊する方の服に名札をつけるのはどうか？しかし、プライドもあり名札を外すのではないか？そもそも、名札を付ける行為自体が失礼なことではないか？
- ・ご家族のカミングアウトも大切ではないか。周囲の協力が家族の支援になる。

○認知症を患っている方の意見

- ・最近になって認知症のような症状が出始め、現実世界とおかしな世界が交錯している状態です。この心の状態は、本人になってみないと分からないと思う。人生の中で主人を亡くした時よりもつらい。
- ・一人暮らしは閉じこもりがちになってしまうので、息子や娘と一緒に暮らせばいいという話だが、息子は息子、自分は自分なので、出来るだけ自分で生活したい。
- ・他人と接して思うことは、否定は頭から押しえつけられる気分になる
- ・老いを逃れる薬が欲しい

感想

認知症を患っている方は何も分からないのではないかと、思われてしまいがちです。認知症の方は昔の記憶を思い出し、会社に行く、子供を迎えに行く、田畑を耕しに行くなど、周りからすると辻褃の合わないことを言っているかもしれませんが、本人にとっては現実に起こっていることで、私たちと同じようにその都度葛藤し思いを巡らせているのだと思います。

グループワークで自分自身がもしかしたら認知症かもしれない、と思われている方の意見を聞くことが出来ました。「この心の状態は、本人になってみないと分からないと思う、人生の中で主人を亡くした時よりもつらい」という風に話されています。そのつらさは本人じゃないと分からないものだとは思いますが、つらい思いをされ葛藤されていることは伝わってくると思います。できれば、そのつらさに寄り添うことのできる接し方ができればと思いました。

次回の介護者の集いは？

5月の語ろう会 テーマ「介護に困ったら相談しよう」

6月の語ろう会 テーマ「せいりょう園の施設紹介」

今春入社した新人4名の1ヶ月を振り返ってそれぞれの想い

乃生 冨佳

安心、安全に介助するための声かけと一人ひとりに合った介助をするということが大切なのではないかと思います。

声かけに関しては観察期間が始まった際に「どのように利用者に関わったら良いだろうか。もし拒否されたらどうしようか」などと後ろ向きに考えていたこともあり、なかなか上手くコミュニケーションをとることが出来ませんでした。次第に声をかけることに慣れ、また先輩職員の利用者に対する言葉がけを見たり聞いたりして上手く関われるようになっていきました。

観察期間を終え、少しずつ実際に介助に関わる中で、利用者一人ひとりに合った介助を考えることの難しさを実感しました。日々の状態変化を知り、その時々によって個人に合った介助を判断し提供すること、そしてどのような人であるのかを把握しておかなければならないということは特に大切であり、難しいことでもあると痛感しました。利用者の特徴や状態変化された時の対応というのは、まだまだ把握しきれていないので、先輩職員から教えてもらった個人の特徴・感性や「こういう時にはこうしたらいいよ」という情報、そしてケース記録などから“どのような人であるのか”を把握し、少しでも一人ひとりに寄り添ったより良い介助を提供できるように努めていきたいです。そして、安心して安全な介助ができるように丁寧な言葉がけ、声かけをしていきたいと思っています。

高橋 達也

私がせいりょう園に介護職員として入社して1ヶ月になりました。初めは自分がここでどういう仕事をすればいいのだろうか、利用者の方とどうやって会話していけば良いのだろうか、右も左も分からず不安ばかりが自分の胸の中にもありました。特に一番不安に思っていたのは言葉のやりとりで、利用者の方との会話や先輩職員とのコミュニケーションはどのようにとっていったら良いのだろうかというのを入社してからずっと考えていました。

しかし、少しずつ利用者の方と会話していったり、利用者の方の日常的生活を自分の目で見ていくうちにその方の特徴が少しずつ見えてくるようになり、先輩職員からの的確なアドバイスをしてもらえると安心感が湧いてくる、この1ヶ月間はそういうことの連続で自分が気づいていないうちにあっという間に1日が過ぎていってしまうみたいな感覚を感じました。

まだまだ勉強したいと思うし、もっと学びたいと思うことが多いのでこれからの時間を大事にしていきたいと思っています。多くの方とのふれあいを通じて人と人との交わりというのを強く結びつけることができる人物を目指していこうと思います。

私は観察期間では利用者の方とコミュニケーションを図りどのような人柄なのか、生活していく上でどんな障害を持っておられるのかなど一人ひとりの理解に努めました。皆さんそれぞれ異なっていて、同じように話かけたり浅はかな認識でいるとその人個人の理解には繋がらないのだと感じました。初め「笑顔で明るく」というモットーを心の中に常に置き利用者の方に話かけていたのですが、いつも笑顔になりすぎ変な明るさで話しかけてしまった為か機嫌を損ね不快感を与えてしまった事がありました。利用者の方の気分が良くない時に無理に話しかけたら不快な思いになるという事は分かっていたはずなのに自分勝手な行動をとってしまった事に反省すべきだと思い、二度と同じ事を繰り返さないように気をつけたいです。

現場研修に入ってからショートスティの業務の流れや介護技術の手順、介助を行う時の留意点などを先輩職員に助言をもらいながら学びを深める事ができました。また、観察期間よりいっそう利用者の方の理解に努めなければならないと思いました。介助を行う上でも利用者それぞれのケースを把握していなければ一部介助すべきところを全介助してしまったり、命にも危険が及ぶのだと痛感しました。残存能力があり全介助する必要のない方を介助者側が好意で全介助してしまうとその方が今持っている最大限の能力を抑制し低下をもたらす他、様々な思いを奪う事になりかねないと感じました。何でも好意だけで行う事のないよう気をつけたいです。業務では確実に丁寧に行うだけでなく効率的に、また他の人の事も考え常に細かな気配りが出来るようにならなければいけないと学びました。業務は一人だけで行っているのではないので様々な所への気配りと相手の立場に立った行動が出来るよう努力しなければいけないと思いました。

観察期間と現場研修を振り返り、観察する事の大切さ、常に危機感と緊張を持ち業務に臨む事、記録や報告、積極的に動く事など多くの事を学びました。観察を行う事に関してはまだ観るべき要点が理解出来ていないし柔軟な考え方も出来ていないので、日々努力ししっかりと観察力を養っていきたいです。

知識不足でまだまだ出来ていない事が多いですが少しでも早く改善していけるようがんばります。

観察期間も含め1ヶ月が経ちましたが、毎日様々なことを学んでいく中で一番感じているのは利用者の方が本来持っている力を引き出すということです。すべてのことをこちらがしてしまうのではなく、出来ることはしていただく、出来ないことはサポートする等その方に応じた対応が必要であり、その為に一人ひとりの状態把握をしておかねばならないと実感しました。

実際現場に入ってみると行き詰ることも多く、自分の思うようにいかなかったり説明していただいたことも忘れてしまったりすることが多々あります。特にトイレ介助では何度も直接介助をさせていただいているにも関わらず車イスから立ち上がる際にどこを持ってば立ち上がりやすいか等の判断が出来ずに、そのことで戸惑い、必要なはずの声かけが充分にできていないことが自分の最も反省すべき点です。そのような自分の行動が不安感を与えているかも知れませんが、自分勝手な対応になってしまっていると思います。自分には欠けているところがまだまだたくさんありますが、日々改善に努めることを心がけていきたいです。

せいりょう園 毎週の行事

- 月曜日 のびのびルーム (自彊術)
 火曜日 のびのびルーム (映画会)
 水曜日 のびのびルーム (カラオケ)
 音楽療法
 自彊術療法
 木曜日 のびのびルーム (自彊術)
 金曜日 ピアノ教室
 陶芸教室 造形教室
- 第2火曜日 折り紙教室
 第1・3火曜日 書道教室
 第2・4水曜日 お話グループ・福寿草の会

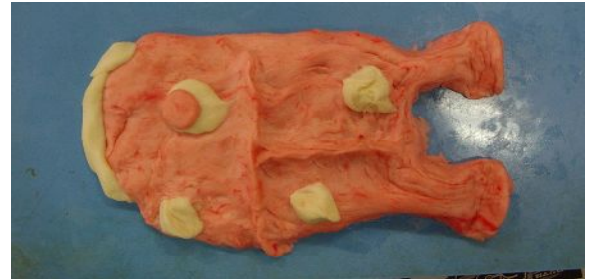
せいりょう園 6月の行事予定

- 6月 1日(火) 野口南小学校 交流会(～4日)
 6月 5日(土) 園長との懇談
 6月 7日(月) 仏教講話
 トライやるウィーク(～11日)
 6月13日(日) 東加古川教会コーラス
 6月16日(水) 昼食会
 6月21日(月) 美容の日(従来型)
 6月23日(水) 美容の日(ユニット型)
 6月25日(金) 郷土料理
 介護についてみんなで語ろう会
 ～せいりょう園の施設紹介～
 6月28日(月) 理容の日



5月の造形教室
 では、こいのぼり
 を作りました

グループホーム
 入居者の作品



せいりょう園 待機者状況

<平成22年 5月12日現在>

- 入所判定済み者 347名
 グループの内訳
 Iグループ…121名 / IIグループ…144名 / IIIグループ…71名
- 入所判定済み者の現在状況
 在宅127名 / 特別養護老人ホーム入所中9名 / 医療機関入院中98名
 老人保健施設入所中80名 / ケアハウス入居中7名 / グループホーム入居中10名 / 不明5名
 辞退その他
 せいりょう園入所2名 / 他施設入所1名 / 辞退2名 / 死去6名

ケアハウス等空き情報 <平成22年 5月17日現在>

《ケアハウス》

- | | | | |
|-------------|----------|-------------|------------|
| ・ 恵泉 | : 若干 | ・ 第二ケアハウス恵泉 | : 若干 |
| ・ あさなぎ | : 2人部屋1室 | ・ めぐみ苑 | : 1人部屋1室 |
| ・ ケアハウスアザリア | : 1人部屋5室 | ・ サリットひまわり園 | : 予約受け付けます |
| ・ 香楽園 | : 1人部屋5室 | ・ 青山苑 | : 1人部屋2室 |
| | : 2人部屋1室 | | : 2人部屋2室 |

[問合せ先]せいりょう園介護相談室

Tel.(079)421-7156/(079)424-3433